

旧第3通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」第4回会議録（要旨）

○座長の発言
●委員の方の発言
⇒ 県教委の回答

【県教委からの説明①】

○前回、北信に1校、多部制・単位制設置の意見が多かった。地域の課題を踏まえ、どのような多部制単位制を期待するかを重点的に議論したいが、いかがか。

○多部制・単位制が充実すれば、定時制の必要性は薄くなるのではないかと感じるがいかがか。
⇒定時制の少人数で救われる生徒もいる。多部制単位制のスケールメリットもある。

●午前部・午後部で募集ということは、夜間部が定時制にあたるのか。どうして、午前部午後部をくくりで募集するのか。
⇒学年が上がると午前部・午後部を一緒にしてクラス編成をしているケースもある。職員の勤務形態で昼間と定時制勤務と分ける部分もある。

○いろんな要素の組み合わせだと思うが、前回の協議会で多部制・単位制については総論賛成であった。細部は今日意見を頂きたい。今2人の委員から多部制・単位制と定時制についても意見が出た。他にはいかがか。

●多部制はいろんなニーズに応えられることが分かった。通信制については卒業が厳しい数字ようだ。多部制と定時制等も入学者数に対して卒業という点ではいかがか。
⇒通信制は、近年、「転編入が増えているが、3年前は入学60人に対して卒業が約90人。一時アルバイト中心になっても復学する生徒もある。再チャレンジできる制度の活用等で必ずしも卒業生が少ないとは言えない。

●夜間定時制について、居住地がどこであれ通学は可能か。場所によって通えない場所はあるか。
⇒定時制は長野市内が多いため比較的通いやすい。ただ戸隠分校は交通費その他で、大変な状況はある。戸隠分校の様子はいかがか。

●長野駅、バスターミナルからバスが出ている。昼間定時でもあり、それほど大変ではないが経済的には大変。実質、生徒はほとんど市内。若干千曲市。市内の定時制の場合も終業後電車もある状況。

●私の高校時代には、戸隠分校の生徒は経済的な状況等で、学力があっても近くの戸隠分校に通っていた印象。今は、市内から交通費をかけて戸隠に通っている子が多いということか。
⇒指摘の通り、中学校時代に普通教室で集団の中での学習に苦勞した子等、多様な生徒が学校見学を経て入学し3年間での卒業を目指している。

○逆にその立地条件を希望して入ってくる子が多いということですね。

●会議をしていて気になるのか、どうして定時制や多部制単位制を選んでいるのか。通級の資料

を見ると長野県の高校生の活用は少ない。学力が足りないのか、家庭の問題なのか、主にどんな理由で通信制や定時制を選んでいるのか。

⇒定時制は、学校に来られない、不登校経験者、人と接するのが苦手、少人数が安心など様々な理由。昼間のアルバイトも可能。また、教科書無償や給食代半分を国が補助、家庭的な問題等もあり、各種制度を活用して卒業した生徒もたくさんいる。

●最近、定時制と多部制のところがかんがらがって来ている。昔は家庭の事情、経済的に厳しく仕事や学問をしていたが、今は個別の多様性に対応するためには定時制の名前を使わなくても、多部制・単位制でよい。あえて定時制としなくてもよい。やはり多部制・単位制高校は必要。

●比較的近くに学年制があり単位制があり、あえて定時制で分けるより多部制・単位制の中にいろんなコースを作る方が私はニーズにあっていると思うがどうか。

⇒生徒指導面等、学年制の方が対応しやすい部分もあるが、最近は単位制が増えつつある。全日でも単位制を検討したり、導入する学校も増えている。長野西高通信・長野定時・長野商業定時では連携協定も結んでいるが、生徒にとって他校での履修はなかなかハードルが高いようである。

○多様なニーズに応えるには、多部制・単位制は魅力だが、定時制の定員充足率は下がるのではないかと思う。他地区は定時制が多部制・単位制に集約された動きはあるのか。

⇒多部制・単位制の歴史はまだ浅く、定時制の集約等はまだ途上。東御清翔は夜間部がなく、東信地区には4校の定時制がある。

●公立通信の生徒がボランティア等でうまくマッチして周囲のサポートで大学に進学していった。公的サポートも含め地域連携は重要な課題。小中に加え高校の学習支援も課題として行っていく視点を持ってほしい。

○通級、通信、多部制単位制等ご意見あればお願いしたい。

●通信制の難しいところは、他校から途中入学の受け皿。どうやって自立に結び付けるかが大事。地域・企業連携。義務では地域は広く考えて子どもを育てている。学校があるから行くという時代ではないと。多様な学びの中で社会との関係性を考える学校になればいい。

⇒地域との繋がりはこのからの重要な課題。望月サテライトも新たな形。

●ここに中条校がないが。入りたい人がいるのに県教委からダメだと言われたようだ。その辺はどうなっているのか。定員を増やせないのか。

⇒中条校・犀峽校はキャンパス校なので全日制でご紹介します。定員は40名です。

●途中からはダメなのか。

○編入のケースの話はまた個別のところ。

●西高の通信は多くの生徒の受け皿になっている。子どもが少ない中で将来、社会で活躍できるように職業教育で技術を身につけるようにできないものか。

○通信については以前、委員から全国の取組みの紹介があった。また事務局からは卒業率が比較的低いとの報告もあった。

⇒地域や学校によっても様々。定時制では普通科の方が比較的生徒が集まりやすい傾向。工業や農業の学びを生かしながらの普通科という形も県では検討している。

○学科だけでなくカリキュラムも検討しているということ。

○前回からの議論では、通信は魅力的だが、内容の充実をはかる必要があるとの方向性。

○通級は多部制・単位制の魅力の一つ。高校はまだ歴史が浅いが看板のひとつ。

●高校の学びの内容を考えると、普通科の中では進学だけを目指すのではなく、様々な経験や将来の職業や自立を考えさせること必要。中条校もそういう点で重要。通級もそこでダメだったら通信行きなさいではなく幅の広さがほしい。

○通級は全ての学校で必要。あくまでも多部制・単位制高校は、その先陣を切るという考え方が必要。

⇒SC等は全ての学校で貴重、通級等は広げて行くことが必要。

●本来、通級を活用すべき生徒は多いと思うがどこで学んでいるのか。

⇒定時も全日もどこの学校でも、SCや生徒相談、保健室、担任、学年など学校全体で支えている。

●障がいを持っている人をサポートする人はいるのか。

○ひとつは通級がない中で、担任が支えている部分もある。高校は多様で、自分と同じような生徒が隣にもいるという多様性で、支援の数を減らしている部分もある。原因は難しい。

●様々な生徒がいる。ケースによって全く違う。様々な通信に行く子もいるし、高校へ進む子もいる。状況を中学から高校の方へ丁寧につないで対応してもらっているというのが現状。

○多部制・単位制についてはひと区切りとしたい。後半の説明を事務局よりお願いしたい。

【県教委からの説明②】

○ありがとうございました。後半の方がシリアスな内容となっている。少子化の問題。この会議は10年後をイメージしていたが、すぐその先15年後はかなり厳しい学級数になる。4学級になった途端に教育の質に関わってくる。10年後、15年後を見据えてご意見を頂きたい。

●高校改革プランでは6学級だったが、今の実施方針では学級規模は示されているか。

⇒実施方針では都市部存立普通校は6学級としている。

●シビアな数字。打開策として義務教育では県独自で35人学級にしている。多様性、通級、個別支援の体制等を考えれば高校の一クラスの定員を少人数学級の対応はできないのか。

⇒高校では選択授業では少人数で実施。教員定数は国の基準でやっている。35人にしても教員の加配はない。

○教科の専門的な教員配置等は、これ以上は厳しいということか。

⇒国の基準なので厳しい。ただし少人数は再編も絡めて研究していかななくてはならない。

●悩ましいが、子どもの数が減ってくるということは、子どもの繋がりが減ってくる。個別対応と大人数と両面必要。少子化で、選択できないことが孤立化にも繋がっている。学校規模を小さくしていくことは社会性を失う面がある。教育の質の保障は大事。中教審では小学校高学年でも教科担任制。高校はもっと専門性が必要。国の基準でいく以上、通級等の指導をしながらある程度の規模を作って再編していかななくてははいけない。

○学級数調整で進める段階と、学校の再編で教育の質を担保する段階も来る。思っていたより近い状況にある。

●学級数の減少は子ども達への教育の質が下がることはわかる。先生方の兼務は考えられないか。そうした制度改革もしないと専門性が担保できない。兼務は難しいのか。

⇒芸術ではすでに兼務が多い。必要なことではあるが、一方で校務分掌やクラブ顧問などを各学校で組むことが難しくなる面もある。

●非免許申請などの現実を見ても、先生の専門性を確保する視点を大切にしてほしい。

●専門の先生とクラブ活動数の資料が興味深い。下の子が小学生。クラスが少なく、専門の先生がいない状況は懸念する。大変な危機感。学校が無くなるのも悲しいが親としては、専門の先生は残して欲しい。一部に大きな規模の学校を残して欲しい。小学校からクラブをしている子が高校まで繋げられないのは、長野県として財産にならない。協議会へのお願いになるが、できることなら学級数が減るのは仕方がないが、一部には大きい学校を残して欲しい。少ないところは極端に少なくても仕方がない。

○学級数を高校によって違いをつけられないかという意見。なかなか難しい。ただ学級数が少ない学校は保護者の立場からしても、魅力はぐっと落ちるということは間違いない。この協議会では、結論まで持っていけることと持っていけないこととあるので、あくまでご意見を頂きまとめていきたい。

●第2段目の資料は1回目からずっと見ている。数字で示されれば、方向性はすでに見えている。逆に再編する中でどう魅力的な学校をつくっていくか。県庁所在地に生徒を集められる学校を作るべき。経済人としては多部制にもどるが、受け入れ側は大変。先生方、学校の在り方、運営は明らかに大変。それに対して地域の経済人や企業としてどう関われるか、ということに我々は主体的に取り組まなければいけない。私立では中学から優秀な社会人活用などが進んでいる。私たちはボランティアでも、多部制・単位制の魅力ある学校づくりに企業として関わっていきたくて思っている。

●私も経済人として発言したい。コロナでテレワーク時代になり、今後ネット教育もさらに発達し、今後学校の魅力がなくなった時に、10年後15年後は表すらあてにならなくなると思う。自分の子どもが高校を選ぶとき、長野にいるから長野の高校を選ばせるか疑問。娘はサッカーやっているからサッカー強いところに行かせようなど、実際はそうした選択が多い。そんな中で、多部制単位制があれば定時制はいらないのではないと思う。学校があって通わなくてはいけないというスタイルが変われば、ネットで単位がとれて卒業できるという教育でよりグローバル化し選択肢

が増える。だから、10年後15年後より、地域の子どもが地域の高校に通いたいとか、逆に東京や都市部の子どもが長野に来たいというプログラムや人材活用で変えていかないといけない。学級を減らすことと2方向で考えるべき。何年後かに「また減らそうまた減らそう」という議論になってはいけないと思う。その辺も検討してほしい。

○両委員さんから大事な鋭い意見を頂いた。確かに10年後15年後はわからない。むしろ予想と違っている可能性の方が高いかもしれない。そうした中で、我々は地域の高校の魅力をグレードアップすることを大切に考えないと、減らすことだけではもう限界かもしれない。

●子どもが減ってきて、教員の担当やクラブの状況等を見ても、統廃合はやむを得ない。一方で多様な子の受け皿も少人数が必要。ある程度の生徒数の中でコミュニケーション力を身につけさせる一方で、少人数校もある程度大事にする必要がある。

○今日の議論に今までのものを含め、県にどう提案していくかは事務局と詰めたい。そのための意見はまた頂きたい。本日の議論はここまでにしたい。最後に意見聴取について、会議の議論のまとめとして特に高校生、小中学生、保護者等から意見を集めないといけない。通常はパブリックコメントが多いがいかがか。各委員の皆さんそれぞれの立場でご参加いただいているので、かなりの部分で反映はされていると思う。いつからどういう形でパブリックコメントを行うかは事務局に一任の上、改めて提案の形で良いか。

●恐らくどこの通学区も県民に意見を問わなくてはいけないと思うので「3通としてどうか」というのは難しいと感じる。

○他の通学区を見て、足並みを揃えるというのも一つあるかとは思いますが、今の意見も含めて検討させていただく方向でよいか。

●そもそも通学区を分けたのは、高校入試で浪人をつくらないという議論から便宜的に分けられたもの。長野県とか東西南北などの視点でやらないと少子化の時代に対応できない。3通だけでは難しいと思う。

○難しいようであれば、背景等も含めて検討させていただく。他に意見は。ありがとうございました。今日はとても密度の高い議論ができたと思う。心より感謝申し上げます。

(事務局)

次回第5回は、まだ確定していないが、年内に開催予定。これまでの協議会についてはHPで公表しているが、まとめについては第5回に提案予定。

○まとめの資料については、各委員に事前配布でお願いしたい。以上で本日の会議を終わります。